



鷺小だより

児童数
304名

<http://www.kuki-city.ed.jp/washinomiya-e/>

学校教育目標

- ◎学ぶ子
- ◎やさしい子
- ◎元気な子

平成30年度のスタートにあたって ～「校歌」の教え～

鷺宮小学校長 江森 浩

保護者の皆様、お子さまのご入学、ご進級、おめでとうございます。3月に41名の卒業生を送り出し、4月に53名の1年生を迎え、全校児童304名と教職員35名の新しい組織で、平成30年度の鷺宮小学校の教育活動がスタートしました。

今年度は、目指す学校像を以下のように設定しました。

「子供たち一人一人の力を伸ばし成長を支えるために、地域とともに歩み続ける学校」

○「知・徳・体」のバランスのとれた子供の育成 ○コミュニティ・スクールの着実な推進

【学ぶ子（自ら学び続ける子）】

【やさしい子（思いやりのある子）】

【元気な子（最後までやりぬく子）】

そして、左記の**学校教育目標（目指す児童像）**を実現するために、家庭や地域との連携を深めながら様々な教育活動を展開し、子供たち一人一人の成長を「チーム鷺宮小」で支えていきたいと考えております。

保護者や地域の皆様におかれましては、今年度も変わらぬご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、学校の儀式的行事などで必ず歌われるものに「校歌」があります。保護者や地域の方々の中には本校を卒業された方も多く、今でも口ずさむことができる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。「学校沿革史」を紐解くと、現在の本校の「校歌」は昭和41年5月17日に制定され、発表会が開かれたと記されています。作詞は、『栗原 浩』氏です。栗原氏は、現在の加須市に生まれ、1956-1972年に埼玉県知事をした政治家です。作曲は、『折山 俊也』氏で、埼玉大学で教鞭をとられ、県内の数多くの校歌を作曲している有名な方です。この「校歌」ですが、歌詞の中に、次のような言葉があります。

人を尊び 己はつつしみて われら未来を 築くとき

子供たちは、情報化やグローバル化の加速度的な進展など変化の激しい社会において、たくましく生き抜き、未来を創り出していかなければなりません。まさに、「われら未来を築くとき」に立ち向かっていくこととなります。その際には、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、共に協働しながら社会を創っていかなければなりません。そのためには「人を尊び 己はつつしむ」態度を子供の頃から育てていくことが大切です。相手を敬って大切にし、自分は節度をわきまえて行動することは、自他の人権を尊重し、みんなが安心して学校生活を過ごすことにもつながります。いじめ問題が心配される中、コミュニティ・スクールに関するアンケートでは74%の方が「思いやりのある子になってほしい」と望んでいることがわかりました。今年度の目指す児童像の一つである**（思いやりのある子）**の育成に向け、今年度も保護者や地域の皆様と手を携えて、豊かな学びを展開していきたいと考えております。1年間どうぞよろしくお願いいたします。